

第45回 日展 金沢展



大樋長左衛門 指絵・金彩「双馬行萬里」

■ 前田利長没後400年

百万石大名の装い - 武具・甲冑・陣羽織 -

■ 城下町金沢 - 武士と人々の暮らし -

- 新収蔵品紹介
- 今年度の普及事業
- 展覧会回顧 西出大三展
- 図書・情報コーナーより
- キッズプログラム 年間予定／夏休み体験講座
- 行事予定
- 所蔵品紹介

第3～9展示室

第45回 日展 金沢展

主催／北國新聞社、公益社団法人日展、日展石川会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、一般財団法人石川県芸術文化協会、一般財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、金沢ケーブルテレビネット

5月24日(土)～6月15日(日) 会期中無休

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、その時々の改革を重ねながら、常にわが国の美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、昭和四十四年の改組から数えて四十五回目の展覧会となります。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、特選(石川県関係では洋画で青木良識、本山二郎、工芸美術で木谷陽子、百貫登与彦などの受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、約四百点を展示します。

◆主な出品作家(五十音順・敬称略)

〈日本画〉

岩倉寿、川崎鈴彦、鈴木竹柏、瀧川真人、土屋禮一、中路融人、能島和明、福田千恵

〈洋画〉

円地信二、庄司栄吉、寺坂公雄、中山忠彦、塗師祥一郎、藤森兼明、村田省蔵

〈彫刻〉

雨宮敬子、石田康夫、川崎普照、得能節朗、中村晋也、野島耕之介、橋本堅太郎、山本真輔

〈工芸美術〉

伊藤裕司、今井政之、大樋長左衛門、奥田小由女、武腰敏昭、中井貞次、三谷吾一、森野泰明

〈書〉

新井光風、井茂圭洞、池田桂鳳、杭迫柏樹、黒田賢一、樽本樹邨、日比野光鳳、星弘道、吉川蕉仙

◆作品解説日程

13日(金)	11日(水)	9日(月)	6日(金)	4日(水)	6月2日(月)	30日(金)	28日(水)	5月26日(月)	
原田博恵(日本画)	村井良樹(彫刻)	堀井聖水(書)	青木良識(洋画)	山瀬晋吾(彫刻)	三藤親映(書)	曾我七代(洋画)	山岸大成(工芸)	古澤洋子(日本画)	10時30分～12時
野島耕之介(彫刻)	中村基克(工芸)	瀧川真人(日本画)	谷村俊英(彫刻)	戸出克彦(工芸)	佐藤俊介(日本画)	江藤望(彫刻)	高廣幸悠(書)	阿戸猛子(洋画)	13時～14時30分
鶴見保次(工芸)	干場昇龍(書)	松田寧子(洋画)	武腰陽子(工芸)	柳橋孝志(日本画)	荒木幸子(洋画)	川本啓久(工芸)	竹内昌力(日本画)	石田陽介(彫刻)	14時30分～16時

◆観覧料

	当日	前売り	団体
大人	一、〇〇〇円	九〇〇円	八〇〇円
中学生	七〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
小学生	四〇〇円	三〇〇円	三〇〇円

※当館友の会員は会員証提示により団体料金になります。

【展覧会事務局】

千九二〇一八五八八 金沢市南町二番一号

北國新聞社事務局内

第四十五回日展金沢展事務局

電話〇七六一二六〇一三五八一



武腰敏昭 無鉛釉上絵染付「朝」



村田省蔵 豊穰



三谷吾一 さえずる

城下町金沢

— 武士と人々の暮らし —

5月22日(木)～6月15日(日) 会期中無休

加賀藩祖・前田利家の金沢城入城にちなんで毎年開催される「金沢百万石まつり」は、毎年人気俳優が扮する馬上の利家が勇壮華麗に市内を回る「百万石パレード」をメインとした金沢市のお祭りです。今年はこの時期にあわせて、江戸時代の金沢に暮らす武士や人々の姿を、絵画や工芸作品をとおして紹介する特集展示を、第2展示室で開催します。

金沢随一の繁華街といえ、今も昔も片町でしょう。現在の国道一五七号線にあたるメインストリートは、かつて『北国街道』と呼ばれ、瀬戸物商に呉服商、造り酒屋など様々な商店が軒を連ねていました。犀川大橋は、行人商人だけでなく、武士や

百姓、子どもたちで賑わう名所でした。この周辺一帯の光景を描いたのが石川県指定文化財『金沢城下図屏風』(福島秀川筆)で、ごり採りや鮎釣りなど、犀川に遊ぶ人々の様子も描かれています。

一方、工芸作品としてご紹介するのが、『紅糸威仁王胴具足』(村井長頼所用)です。華やかな紅糸を用い、叩塗たたみりに金箔押の胴部に、あばら骨と乳首という大胆なデザインを打ち出したこの甲冑は、昨年フランス・パリでも展示され、大きな反響を呼びました。

以上二点は、いずれも県立歴史博物館(歴博)の所蔵品です。歴博は現在改修工事による休館中のため、歴博と本館所蔵品をミックスさせた展示が可能となりました。どうぞお楽しみに。



県文「金沢城下図屏風」福島秀川筆

百万石大名の装い

— 武具・甲冑・陣羽織 —

5月22日(木)～6月15日(日) 会期中無休

百万石まつりに合わせて開催する恒例の展示です。前田育徳会には初代藩主前田利家から十四代藩主前田慶寧に至る武具甲冑が収蔵されていますが、ことに古い時代のものは、使用されていたことや経年変化による損傷もあり、近年は三年で一巡するよう展示しております。今回は、二代前田利長から六代前田吉徳の武具甲冑と陣羽織を公開します。

今年、二代利長(一五六二～一六一四)の没後四百年を迎えました。利長は加賀藩祖利家とまつ(芳春院)の長男として生まれ、豊臣秀吉や父利家の没後から徳川家康による江戸幕府成立に至る難局の時代を、前田家の存続を守ることを第一とした苦渋の政治判断を強いられながら、加賀藩の礎を築きました。慶長十年(一六〇五)、三代利常に家

督を譲り富山城へ隠居しますが焼失し、高岡城(高山右近の縄張といわれる)を築き移りましたが、病のため五十三歳で亡くなりました。

利長所用と伝わる鯰尾形兜を三年ぶりに公開し、武將利長を偲んでいただきます。あわせて、刀(長次作・成巽閣蔵)を展示します。これは利常が利長の菩提寺として建立した高岡の瑞龍寺に、奉納したうちの一口です。四代光高の早逝により、わずか三歳で家督を相続することになった五代綱紀の武運長久を願い、加賀藩領内の二十二名の刀工に命じて作らせたものですが、今日では二口のみが伝わる貴重な作品です。その他約二十五年の作品から、百万石大名の武の世界を紹介します。

鯰尾形兜 二代前田利長所用

平成25年度

新収蔵品紹介

平成25年度は、下表のとおり新たに27点の作品が収蔵されました。そのほか4点の資料の寄付を賜りました。皆様には、改めて厚く御礼を申し上げます。これで平成24年3月31日現在の収蔵品は、3,247点となりました。今後とも当館事業へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

No.	分類	作品名	作者名	制作年	員数	寄附者(敬称略)
4	作家資料	図案	氷見 晃堂	昭和	一件	氷見 善信
3	作家資料	長火鉢・八角火鉢	氷見 晃堂	昭和十五年頃	二点	竹守 登美
2	作家資料	書簡・葉書・自画像	鴨居 玲	昭和二十三年頃	三件	向田夕三
1	作家資料	絵皿「嫁ぐ人へ」	鴨居 玲	昭和三十一年	一口	木村 温彦・越前 直美
27	彫塑	金森徳太郎像	都賀田勇馬	昭和二十年	一点	金森 一馬
26	素描	女性像	鴨居 玲	昭和五十七年	一面	西村 信昭
25	素描	スケッチブック「姥子、金剛会春季」	須田国太郎	昭和三十年	一冊	須田 寛
24	素描	スケッチブック「山梨」	須田国太郎	昭和三十年	一冊	須田 寛
23	素描	スケッチブック「阿蘇」	須田国太郎	昭和三十年	一冊	須田 寛
22	油彩画	風蝕・南瓜のC	能島 芳史	平成二十四年	一面	能島 芳史
21	油彩画	くも	開 光市	平成十五年	四面一組	
20	油彩画	舟	開 光市	平成九年	四面一組	
19	油彩画	初夏の香り	長谷川 清	平成十七年	一面	長谷川 清
18	油彩画	初秋	長谷川 清	平成九年	一面	長谷川 清
17	日本画	氷食	古澤 洋子	平成十五年	三面一組	
16	日本画	THE BRONX	中町 力	平成二十三年	一面	中町 力
15	日本画	写生画巻	川端 玉章	明治	一卷	吉田 倫子
14	日本画	朝日の当たる街	山本 知克	平成十一年	一面	山本 茜子
13	日本画	たそがれの街	山本 知克	平成二年	一面	山本 茜子
12	日本画	朝の中之島	山本 知克	昭和五十五年	一面	山本 茜子
11	日本画	ひるさがりの僧院	山本 知克	昭和四十四年	一面	山本 茜子
10	人形	木芯桐塑人形「野の小径」	井口 十糸	昭和五十五年	一躯	井口とし子
9	人形	木芯桐塑人形「愛しき子」	井口 十糸	平成十一年	一躯	井口とし子
8	人形	木芯桐塑人形「おママごと」	井口 十糸	平成三年	一躯	井口とし子
7	人形	木芯桐塑人形「通り雨」	井口 十糸	昭和六十一年	一躯	井口とし子
6	人形	木芯桐塑人形「日溜り」	井口 十糸	昭和五十九年	一躯	井口とし子
5	人形	木芯桐塑人形「森の秋」	井口 十糸	昭和五十八年	一躯	井口とし子
4	人形	木芯桐塑人形「樹精」	井口 十糸	昭和五十四年	一躯	井口とし子
3	木竹	桑造金銀縮れ線象嵌文鎮	氷見 晃堂	昭和四十八年	一点	氷見 善信
2	木竹	桑造軸箱	氷見 晃堂	昭和四十九年	一合	氷見 善信
1	木竹	神代杉挽曲造木象嵌食籠	灰外 達夫	平成二十六年	一合	灰外 達夫

平成26年度の普及事業

平成二十六年年度の普及事業をご案内します。今年度も「土曜講座」、「ギャラリー・トーク」、「講演会」、「百万石文化講座」、「映像ギャラリー」、「キッズ☆プログラム」、「美術館バスツアー」、「文化財現地見学」、「学校出前講座」など、多彩な内容で当館の普及事業を展開いたします。

まず、前号でもご案内した「土曜講座」ですが、本年度は当初の予定に三回を加え計二十七回の講座となりました。会場は美術館講義室、時間は土曜日の午後一時三〇分～三時頃まで。「石川県の魅力発信」という共通テーマに、各自の担当展覧会や調査研究をもとに自由テーマを加味し、五月十日から二十七年三月十四日まで、八月をのぞいて、毎月行います。どなたでも受講できますが、県民大学の教養講座の一つともなりますので、その場合は県民大学校受講の手続きをして下さい。（当館でも行えます。）もちろん、申し込みなしでそのうちの一回だけを受講することもできます。

企画展での「ギャラリー・トーク」は、日曜日の午前十一時から約一時間を予定しています。既に、『新紀元革新の視座』展でご参加いただいた方もいらつしやると思います。作品を前にしたとき、文字による説明ではなく、簡単な解説を聞くことができらばと思うことがあ

はそうした思いに答えるものです。一方的な説明ではなく、合いの手のように質問を發しただけでも結構です。

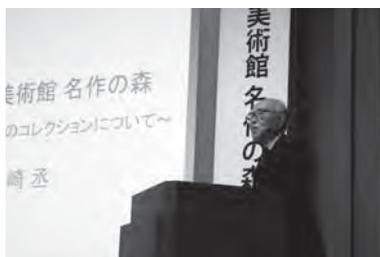
「キッズ☆プログラム」は、制作体験と鑑賞講座を行います。制作は夏休みに行いますが、事前の申し込みが必要です。鑑賞は申し込み不要で、コレクション展示室の作品を中心に、親子で語り合いながら鑑賞します。ご家族そろっての来場をお待ちしています。

最近ホールを一般の方々にピアノや邦楽などの発表会場として貸出しています。貸出の期間は当館主催の企画展など大型展を行わない時期となりますので、制限されるのですが、大変好評で、一年前から受付を行います。従って、美術映画やビデオを上映する「映像ギャラリー」の回数がめっきり減ってしまいました。月に一度は開催中の展覧会に関連した内容の映像を上映して、作品鑑賞の補助にしたいと考えています。

近年普及事業として特に力を入れているのは、「学校出前講座」です。ほぼ毎年十校をめぐりに、県立美術館に来館することが難しい地域の小中学校に、当館の近現代作品を持ち込んで鑑賞授業を行うというものです。大きな日本画や油絵を前にした生徒たちのきらきらとした表情を見ると、体力のいる事業ですが、開催してよかったという思いがふつ

つとわいてきます。

企画展や特別陳列に関連して外部から講師を招いて行う「講演会」と加賀藩主の生活や尊經閣文庫を中心とした内容で年三回行う「百万石文化講座」、そして一泊二日の「文化財現地見学」、日帰りの「美術館バスツアー」は、詳細をこれからの「美術館だより」や当館ホームページでご案内いたしますので、ぜひご覧いただき、ご確認下さい。本年度も皆様方の多くのご参加をお待ちしています。



特別陳列「生誕100年 截金きりかね 人間国宝・西出大三 —平安の美を求めて—

平成26年2月15日(土)～3月21日(金・祝)

馴染みのない言葉が多い工芸技術の中でも截金きりかねと聞いて、すぐにイメージが出来る方は少ないでしょう。截金の人間国宝、西出大三氏の作品群は予備知識なしで観ても美しいのですが、展示を行う以上、もう一步踏み込んだ理解を促したいというのは、私たち芸員が常に意識していることです。制作年代で作風を追うことに加え、鑑賞のガイドになるよう、鳥、源氏物語、仏教など制作のテーマに沿ったキーワードを元に、いくつかのセクションに分けました。

仏教美術と縁が深い截金の説明として、東京国立博物館、東京藝術大学美術館、神奈川県立金沢文庫の資料をパネル展示し、さらにポララ伝統文化振興財団から、氏の技術記録映画をお借りして、展示室脇で上映したところ、何度も展示を見返す方が多く見られました。また截金の人間国宝三人の中でただ一人、自ら行う素地の木彫の高い技術、これらを紹介する初期の木彫作品にも大きな反響がありました。そして会期中截金の実演を行った、截金ガラス作家山本茜さんのワークショップは多数の方々にご参加いただきました。

日本伝統工芸展出品作を中心とした、西出氏の代表作をまとめて展示することは、平成五年の加賀市美術館での展示以来のことです。氏の作品を最も多く所蔵する館として、できる限り多くの作品で業績を紹介できたことを嬉しく思います。

最後に本展開催に当たって多大なご協力をいただいたご関係者、ご出品者の皆さまに、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。



図書・情報「コーナー」より

金沢では毎年六月、恒例の「百万石まつり」が華やかに繰り広げられます。周知のとおり本祭は、加賀藩祖・前田利家が天正十一年（一五八三）六月十四日（新暦）に金沢城に入城したことになんて開催されるものです。当館では、昭和五十八年の新館開館以来、前田育徳会の所蔵になる加賀前田家由来の文化財を公開する専用の展示室を設け、常時公開するとともに、加賀百万石の芸術文化をテーマにした特別展を企画し、そのすぐれた文化の諸相を紹介してきました。

一方、新館開館以前には、前田家ゆかりの文化財は他県でも公開されていません。ここでは、当館の蔵書の中から、他の地で開催された『加賀百万石』を冠した展覧会図録をご紹介します。と思います。

「加賀百万石城下 古美術品展覧会目録」

昭和十三年／会場・高島屋（大阪・難波）／主催・金美会

「加賀百万石大名展」

昭和四十一年／会場・宝塚ギャラリー／主催・前田育徳会、日本経済新聞社

「加賀百万石大名展」

昭和四十一年／会場・新宿ステーションビルディング／主催・前田育徳会

「加賀百万石美術工芸展」

昭和四十一年／会場・仙台市博物館／主催・仙台市、仙台市博物館

「加賀百万石国宝と茶道名宝展」

昭和四十二年／会場・丸物（京都）／主催・前田育徳会

「加賀百万石前田家名宝展」

昭和四十七年／会場・島根県立博物館／主催・島根県立博物館

「城下町金沢をゆく 加賀百万石展」

昭和五十八年／会場・岡山城天守閣／主催・岡山市、山陽新聞社

このほか当館でも旧館時代に、「加賀百万石名宝展」昭和三十八年、「加賀百万石陣羽織と百工比照」昭和四十二年などを開催しています。

※開室時間は、午後一時～五時。貸出し、コピーサービスは行っていません。

平成26年度 キッズプログラム

◆鑑賞講座

申し込みなしで参加できる小学生親子対象の鑑賞講座です。各講座（八月二日（土）開催の「アート200かるたを楽しむ」を除く）、日曜日の午後一時三〇分開始、約一時間半の活動で当館コレクション展をはじめとした作品と楽しく出会うプログラムです。参加は無料、ご参加の方は観覧料も無料になります。

第一回 特集展示「夏休み親子で楽しむ美術館「アート200かるた」
「アート200かるたを楽しむ」 8月2日（土）と10日（日）

美術館の展示室でかるた？皆さんお馴染みのかるたのルールにのっとりゲームを取り入れた活動で楽しい美術鑑賞が体験できます。二回開催、お好きな日にお越し下さい。

第二回 特集展示「石川の名宝」

「石川県のお宝知ってる？」 11月16日（日）

私たちの石川県の宝ものには、どんなものがあるか知っているかな？この講座に出れば、あなたも石川のお宝博士になれるかも。

第三回 特集展示「風景画の魅力」

「絵の世界を旅してみよう」 12月14日（日）

画家が毎日の生活や旅先で出会った風景を描いた風景画。「行ったことある？こんなところ…」「どんなところに行ってきたのかな？」あなたも画家の出会った絵の世界に入っ一緒に旅をしてみよう。

◆体験講座を含む鑑賞講座

特集展示「新春を寿ぐー茶道美術を中心に」、「香をかざる。茶をたのしむ」

「茶道具あれこれーはじめての竹芸」 1月25日（日）

お茶道具の鑑賞と、抹茶を飲む時に出されるお菓子を食べるための「マイ菓子切り」を制作する体験講座。完成後はその菓子切りでお菓子を頂きお抹茶体験もお楽しみ下さい。（菓子切りは親子それぞれ一本ずつ制作し、刃物が扱える四年生以上が対象です。）

※要申し込み

夏休み制作体験

夏休みに美術を楽しんでいただく小学生親子対象のプログラムです。親子で共に制作できる楽しいひとときを過ごしてみませんか？今年度も午前中から講座開始でお昼をはさんで制作する二講座と、午後開始で学年を問わずご兄弟2名でも参加できる講座をご用意いたしました。

申し込みが必要となりますが、詳細は来月掲載の夏休み体験講座の欄をご覧ください。

◆1・2・3年対象「木の人形をつくる」

8月1日（金） 10時30分～14時30分

木切れを組み合わせて座る形の人形を作ります。木工用ボンドでの制作となります、積み木感覚で楽しく制作できます。

◆4・5・6年対象「型染めでおしゃれTシャツ」

8月6日（水） 10時30分～14時30分

身近なものを簡単におしゃれにできるステンシル感覚で型染めに挑戦。カッターナイフを使わず、しかも連続模様もできる方法であなただのTシャツもおしゃれに変身。

◆全年対象「もみ紙でアート」

8月4日（月） 13時30分～16時

日本画や掛け軸を飾る表具など、古くから日本に伝承されてきた技法「もみ紙」。紙が次第に布のような感触になっていくもみ紙づくりと、そのもみ紙を使ってもみ紙アートにも挑戦。

六月の行事予定

22日（日）	「明治・大正・昭和 日本画の伝統と変革」(25分) 「洋画と日本画ー日本近代美術の出發ー」(25分)
14日（土）	「工芸作家と古典研究」 寺川 和子
21日（土）	「系譜で見る石川の日本画」 前多 武志
22日（日）	「ビデオ鑑賞会」 午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料
14日（土）	「土曜講座」 午後1時30分～ 美術館 講義室 聴講無料

銘(兜)明珎家次 (頬当左)金澤住人 (脛当右)雲海光尚作 前田孝和所用 江戸時代



甲冑の見どころは、たくさんあります。兜の前立には鋭い鍬形と正面を向く獅子、頬当は黒の皺皮(馬皮や牛皮に漆を塗り、皺を出したものに金の龍が輝きます。威糸も裾のみ紫、他は花色(縹色が転じ、紺色をこう呼ぶ)という珍しい鮮やかな組み合わせです。こうした華やかさと、多様な工芸技術を駆使して製作されたのが「加賀具足」で、本作品はその特徴をよくあらわした一領です。

やがて藩独自の特色が生まれました。兜には明珎家次、頬当には雲海光尚の銘があります。雲海派は、兜や胴など鉄の鍛えを担い、奈良を中心に活躍した春田氏一派で、三代藩主利常の時代に金沢へ渡ったとされます。藩には御細工所ができた一方、町方で甲冑製作に携わる職人も多く暮らしていました。兜は鉄錆地六十二間小星兜。六枚胴とは、胴部が六枚より成るといふ意味です。前田孝和は、加賀藩老臣前田対馬守家四代孝貞の二子で、人持組前田勘解由家(三千石)の初代となりました。

※第2展示室にて五月二十二日から六月十五日まで展示。

次回の展覧会

会期:6月19日(木)
 ~7月27日(日)

前田育徳会
 尊経閣文庫分館

近代の美術
 ー日本画を中心にー

第2展示室

北陸ゆかりの画聖たち
 ー長谷川等伯・久蔵・左近・久隣守景ー

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
 大学生 290円(230円)
 高校生以下 無料
 ※()内は団体料金
 毎月第1月曜日はコレクション展示室
 無料の日(6月は2日)

今月の開館時間
 午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間
 午前10:00~午後7:00 年中無休

6月の休館日
 16日(月)~18日(水)

第3展示室

新収蔵品展
 [日本画・油彩画]

第4展示室

人体彫刻

第5展示室

石川工芸の
 昭和50年代

第6展示室

系譜で見る
 石川の絵画

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
 エムザでお買物

Meiカード
 通常ポイント

+

3%
 ポイント
 プラス

※催事場、地産食品売場などやご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)
 www.meitetsumza.com
 10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより
 第368号(毎月発行)
 2014年6月1日発行
 〒920-0963
 金沢市出羽町2番1号
 Tel:076(231)7580
 Fax:076(224)9550
 URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>